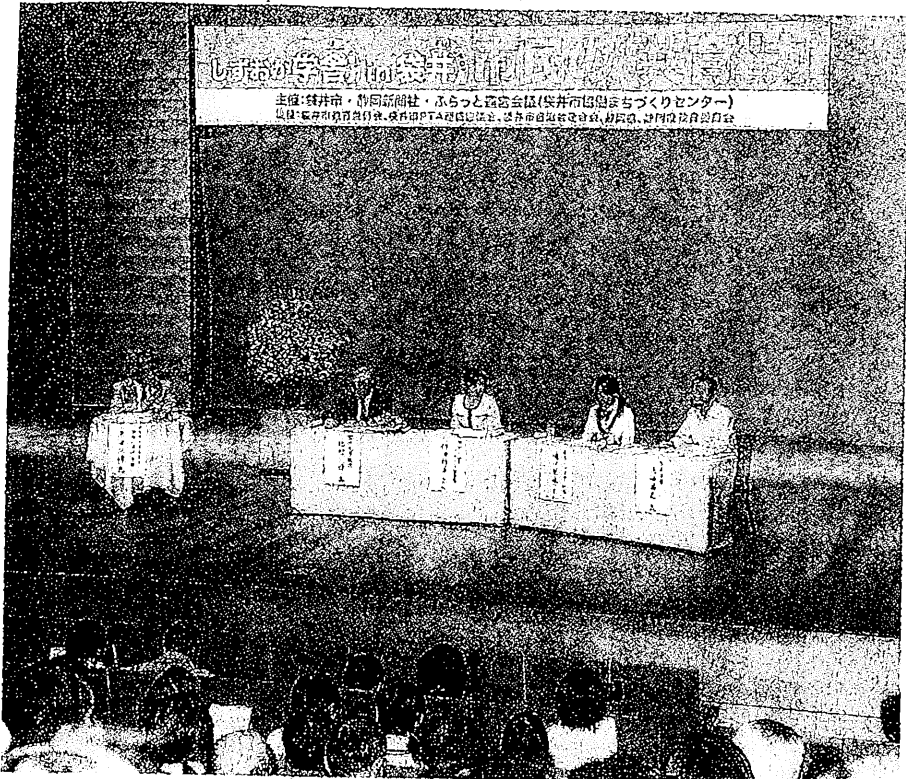


地域で子ども育てる

袋井で「世代間の交流」大切 シンポ

しずおか
学舎
まなびや

詳細1617



「子どもを育てる」などの著書がある福留強聖徳大教授が、「地域で輝く子ども」と題して基調講演し、子どもが地域づくりに参加する必要性を説いた。経歴を地域に生かす中高生を「創年」と呼ぶ福留教授は、創年

か。静岡新聞社は十六日、袋井市、同市協働まちづくりセンター「ふらっと」運営会議と同市上山梨の月見の里学遊館で「市民の共育」カをテーマにした教育シンポジウム「しずおか学舎 in 袋井」を開いた。会場を埋めた市民ら三百人余りを前に、保護者や青少年、教育者、行政の代表が率直に意見を交わした。

との交流で子どもの社会性が育つ効果も指摘、創年が支える「子どもが主役のまちづくり」を主張した。

パネルディスカッションには同教授を含む四人のパネリストが参加。同教授が地域や世代間のコミュニケーション不足などを指摘し、原田英之袋井市長が徳育を實踐する「報徳思想」などの活用を提唱した。

母親代表としてNPO法人プライツ代表の村田朝子さんは「まちづくりは人づくり」と助け合いの必要性を強調、袋井商業高校三年田口聡美さんは同校模擬企業「袋商ショップ」社長を務める立場から「コミュニケーションで学ぶことが多

い」と交流の大切さを話した。

コーディネーターは原田誠治静岡新聞社常務が務めた。

地域づくりの中での教育を模索して意見を交わした「しずおか学舎 in 袋井」

袋井市上山梨の月見の里学遊館

袋井市上山梨の月見の里学遊館

